

### 3. 実地研修

- ・ 期間：平成 26 年 9 月～平成 26 年 11 月 （図表 5 参照）
- ・ 場所：10 か所の研修受入団体

内容：各研修受入団体が作成した計画書に基づき、支援現場の実務を通じて、知識や技法の習得、当事者対応、アウトリーチへの同行、関係機関との連携、アウトリーチの組織体制や事業運営等、テキストや座学のみならず OJT 形式で研修を実施した。

研修内容の詳細は、受入団体ごとによって異なるため、図表 6 に記載する。

※本報告書の「(参考) 実地研修 研修生の報告資料～」に、各研修生が作成した、実地研修の内容や学んだ事柄を報告した資料も掲載する。

図表 5 （研修受入団体／実施研修先）

研修受入団体名（地域）
山武郡市広域行政組合教育委員会山武郡市教育相談センター 〈適応指導教室〉（千葉県山武郡山武市）
調布市こころの健康支援センター（東京都調布市）
特定非営利活動法人わたげの会（宮城県仙台市）
特定非営利活動法人教育研究所（富山県黒部市）
特定非営利活動法人北陸青少年自立援助センター（富山県富山市）
特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶや（東京都渋谷区）
特定非営利活動法人青少年自立援助センター（東京都福生市）
特定非営利活動法人青少年自立援助センター北斗寮（愛知県蒲郡市）
特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス （佐賀県佐賀市）
特定非営利活動法人奄美青少年支援センターゆずり葉の郷（鹿児島県奄美市）

※各研修受入団体の研修概要については、事項から順に記述する（図表 6）

図表 6 (実地研修／各研修受入団体の研修概要)

機関・団体名	山武郡市広域行政組合教育委員会 山武郡市教育相談センター（適応指導教室）
所在地	〒283-8505 千葉県東金市東岩崎1-17
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	公的機関であるため、学校との連携を密にしつつ、訪問支援を行っている。
機関・団体で運営している 相談・支援機関名	山武郡市教育相談センター
	適応指導教室ハートフルさんぶ東金教室
	適応指導教室ハートフルさんぶ大網白里教室
	適応指導教室ハートフルさんぶ山武教室
	適応指導教室ハートフルさんぶ横芝光教室
研修全体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山武郡市教育相談センターの活動概要について</li> <li>・訪問カウンセリングについて（心構えと実践事例等について）</li> <li>・訪問カウンセリングの計画について</li> <li>・相談センターカウンセラーの活動概要について</li> <li>・訪問相談担当教員の活動概要について</li> <li>・訪問カウンセリングの実地研修</li> <li>・適応指導教室における通級児童生徒への教育支援（4教室）</li> </ul>
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・受入団体の業務内容説明</li> <li>・訪問カウンセリングについて（心構えと実践事例等について）</li> <li>・訪問カウンセリングの計画について</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談センターカウンセラーの活動概要について</li> <li>・適応指導教室における通級児童生徒への教育支援</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問相談担当教員の活動概要について</li> <li>・適応指導教室における通級児童生徒への教育支援</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問カウンセリングの実地研修</li> <li>・適応指導教室における通級児童生徒への教育支援</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適応指導教室における通級児童生徒への教育支援</li> <li>・実地研修の振り返り</li> <li>・研修のまとめ</li> </ul>

機関・団体名	調布市こころの健康支援センター
所在地	〒182-0024 東京都調布市布田5-46-1
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	担当職員との関係づくり、外に出られない方の生活状況や安否の確認、サービス調整等を目的として訪問支援を実施している。
機関・団体で運営している相談・支援機関名	担当部署（精神保健福祉相談、障害者就労支援事業、発達障害者支援事業、ひきこもり相談、指定特定相談支援事業所）
	法人全体（地域福祉権利擁護事業、障害者相談支援事業、生活福祉資金貸付相談）
研修全体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会に適応できない困難を抱える方々の現状と支援についてレクチャー</li> <li>● 社会参加訓練として行うデイ事業各種プログラム・就労支援事業の準備訓練・家族支援としての学習会や交流会・事例検討会・講演会や地域との連携イベントへの参加</li> </ul>
研修内容	事業説明・参加の諸注意・デイ事業（選択制プログラム）
	デイ事業（グループワーク）・訪問または同行支援
	家族学習会またはSST（コミュニケーション訓練）・事例検討会
	地域との連携（市民参加のイベント参加）または講演会
	就労支援ミーティングまたはSST

機関・団体名	特定非営利活動法人 わたげの会
所在地	〒982-0001 宮城県仙台市太白区八本松1丁目12-12
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	わたげの会は平成9年の設立当初から訪問支援を行い、同会のフリースペースと協働しながら、ひきこもり当事者の自立に向けた支援を展開している。当法人は当事者支援と同様、家族支援についても重点的に取り組んでいる。訪問支援においても、事前の家族面接や父親・母親教室において家族支援を十分に行い、支援者と家族が協力しながら当事者と関わっていく環境づくりに努めている。
機関・団体で運営している 相談・支援機関名	厚生労働省認定事業 せんだい若者サポートステーション 障害者小規模地域活動センター わたげ 障害者小規模地域活動センター 第二わたげ
研修全体の概要	訪問支援の同行や当法人が運営する通所型施設において当事者へのアプローチ方法や家族支援等への取り組みを中心に研修を実施する。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・当法人の業務内容説明</li> <li>・各事業運営についての説明</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援現場での同席</li> <li>・家族教室の見学</li> <li>・訪問支援についての事前学習</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問支援（これまでの支援経過について同行スタッフより説明）</li> <li>・訪問後、訪問（支援）記録の作成補助と振り返り</li> <li>・フリースペースでの利用者対応</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリースペースでの利用者対応</li> <li>・スポーツ行事への参加</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実地研修の振り返り</li> <li>・訪問支援についてのまとめ</li> <li>・連携、ネットワークについての説明</li> </ul>

機関・団体名	特定非営利活動 法人教育研究所 実習先：宇奈月自立塾
所在地	〒233-0013 神奈川県横浜市港南区丸山台 2-26-20
研修実施場所	〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 5509-16
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	教育研究所では過去 30 年にわたり、不登校・ひきこもりなどの若者の支援活動を行い、その累積したノウハウを基に、ひきこもり・ニート以外に生活保護受給者なども範囲に入れ幅広く訪問支援しております。(対象年齢小学高学年～50代)
機関・団体で運営している相談・支援機関名	にいかわ若者サポートステーション 宇奈月自立塾(合宿施設)
研修全体の概要	合宿施設でニートの若者達と一緒に生活をしながら、特性を学び、アウトリーチの専門家として育てもらう。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・ひきこもり・ニートの心理、対応などの理論などの講座を受講</li> </ul>
	寮生との運動・ディスカッションを通じてのひきこもり・ニート等の理解寮生の日常的な生活補助
	訪問支援者の心理背景・生育過程などの総合的な事前研修を行い、スタッフと共に訪問支援を行う。訪問後の事後研修も実施する
	前日の訪問を振り返り、活かす。訪問支援者の心理背景・生育過程などの総合的な事前研修を行い、スタッフと共に訪問支援を行う。訪問後の事後研修も実施する
	まとめ

機関・団体名	特定非営利活動法人 北陸青少年自立援助センター
所在地	〒939-2204 富山県富山市万願寺1-4-4番地
研修実施場所	〒939-0871 富山県高岡市駅南1-1-18
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	当法人が実施する高岡地域若者サポートステーションに誘導し、学習支援・職場体験やボランティア体験・職場見学・生活訓練等につなげ、社会的に活躍できる場を広げていく。
機関・団体で運営している相談・支援機関名	高岡地域若者サポートステーション
研修全体の概要	共同生活寮「はぐれ雲」で、寮生と当番や作業をとおして交流を図る。 サポステに同行してもらい、アウトリーチに参加。
研修内容	オリエンテーション、業務内容説明
	フリースペース等の利用者への対応（農作業、スポーツ、食事準備等） ・利用者のケース検討等
	フリースペース等の利用者への対応（農作業、スポーツ、食事準備等） ・アウトリーチに関するケース検討
	・アウトリーチ同行 ・訪問先（被支援者）のこれまでの支援経過について、同行スタッフよりレク ・訪問後、支援記録の作成補助と振り返り
	振り返り、まとめ

<p>機関・団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 ピアサポートネットしぶや</p>
<p>所在地</p>	<p>〒105-0013 東京都渋谷区恵比寿4-7-6KTビル201</p>
<p>機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者を中心としたピアサポーターと主任支援員がボランティアとして訪問し、自宅以外で過ごすことや外出の付き添い、居場所への誘導を行い、居場所での仲間づくりや再チャレンジを支援する。</li> <li>・若者へのアウトリーチと連動して、主任支援員は家族へのアウトリーチ</li> <li>・ピアサポーターを支える主任支援員、相談員と専門職、アウトリーチを支える地域ネットワークを持つ。</li> </ul>
<p>研修全体の概要</p>	<p>ともに学ぶことを大切に、当法人の行っているアウトリーチを含む全事業についての情報提供、実践、参加や見学を通して、それぞれが所属する団体との活動の比較や自らが求めていること、団体から求められていることなどを、対話しながら、気づきがうまれる研修にする。</p>
<p>研修内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・受入団体の業務内容説明</li> <li>・各実施事業についての説明</li> <li>・情報交換、振り返り</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポート活動について</li> <li>・支援している子ども、若者の状況</li> <li>・NPOと地域連携、ネットワーク形成について</li> <li>・情報交換、振り返り</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族支援について</li> <li>・住居への同行訪問</li> <li>・ファイン（地域）活動への参加・見学</li> <li>・情報交換、振り返り</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者対応</li> <li>・ケース検討への参加</li> <li>・地域活動への参加・見学</li> <li>・情報交換、振り返り</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実地研修の振り返り</li> <li>・情報交換</li> </ul>

機関・団体名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター
所在地	〒197-0011 東京都福生市福生2351-1
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	当法人では開設以来アウトリーチ事業を基軸とした青少年自立支援活動を全国的に展開してきた。近年、景気の低迷等の影響もあるのか、地域に関係なくニート層が多く目につくようになってきた。しかしながら、実際にアウトリーチをできる機関は少なく、そのスキルも一定ではないのが現状である。そのような、状況に対して一定スキルを持った人材の育成が急務と考えられる。当法人では、年間300件超の訪問支援を実施していて、その臨床例も多く蓄積されている。20、21、22年度においては、東京都委託事業のひきこもり支援「コンパス」で支援員向けの講座をおこなった。23年度からは「東京都若者者聞参加応援事業」でも民間団体・公的機関職員向けの講座を実施している。より実践に近い形で、座学よりはロールプレイの時間を多くとり、また訪問支援の同行も行った。それにより、各々の現場において有効なアウトリーチの実践をおこなえるようになったとのご報告をいただいている。そのような部分のノウハウも研修事業の中で生かして行き、研修後直ぐに役立つ内容としたい。そのような人材が多く輩出されれば、各地域において、早期対応ができるようになり、ひきこもり状況が厳しくなる前に対処できると共に、予防的な側面も期待できる。本事業において多くの人材が広域に展開されればと考えている。
機関・団体で運営している相談・支援機関名	あだち若者サポートステーション いたばし若者サポートステーション 多摩若者サポートステーション 黒潮若者サポートステーション フリースペースわかば（セーフティネット足立）
研修全体の概要	ニート・ひきこもり状況のトータルしたサポートを体験してもらう。入口のインテーク面接の重要性からアウトリーチの実際を座学・ロールプレイで体験してもらう。また、生活困窮者等の支援も視野に入れ、当法人で実施している生活保護家庭の支援・アウトリーチも体験してもらう。最終的には、出口の部分を理解する必要があるので、就労支援等の事業にも参加してもらい、支援の全体像を理解してもらえようように講習を実施していく。
研修内容	開講式、オリエンテーション（ガイダンス） 団体概要・事業説明・今後の日程・注意事項説明、施設案内職員紹介、施設見学 ・アウトリーチ研修 座学（半日）、ひきこもりの基本的原理 基本事項の確認 ⇒ インテーク編、アウトリーチ編 ・現場実習 職員会議等の参加 就労支援現場での利用者対応 フリースペース対応 あだち若者サポートステーション実習 訪問支援同行（生活保護家庭への支援・同行） ・現場実習 ・講習のまとめ



機関・団体名	特定非営利活動法人 青少年自立援助センター 北斗寮
所在地	〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通 5-141
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	<p>当法人は、平成8年設立当初より訪問支援を行い、ひきこもり状態等の若者の社会的自立を支援しており、訪問支援から対象者を支援機関・団体へつなぐ支援のノウハウを蓄積し、支援ネットワークを構築している。</p> <p>多くの場合、保護者相談から始まり、自立を目指しているがうまく支援機関を利用できていない若者への訪問支援はタイミングを図って開始している。対象者本人への直接アプローチは、本人が安心して支援を受けられるような環境・関係作りに努め、その上で情報提供・交換を行ないながら、本人が一步を踏み出すきっかけをサポートし、必要に応じて適切な支援、機関へとつないでいく。当法人では、段階的に行なえる自立支援プログラム、また合宿型の自立支援を展開している。</p>
機関・団体で運営している相談・支援機関名	<p>特定非営利活動法人 青少年自立援助センター北斗寮</p> <p>がまごおり若者サポートステーション</p>
研修全体の概要	訪問支援について講義やロールプレイ、同行を行ない、合宿型支援施設（当法人）及び、通所型支援施設（サポートステーション）にて誘導後の支援プログラムの内容や当事者へのアプローチ方法、また他機関との連携等の取り組みを中心に研修を実施する。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション、受入団体の業務、運営事業の内容説明、等</li> <li>・支援者間の情報交換</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ（訪問支援）に関する講義、ロールプレイの実施</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問同行①</li> </ul> <p>事前：訪問支援の経過について、同行スタッフよりレクチャー    事後：訪問支援の振り返り、記録作成の補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所にて利用者対応（声かけ等）／支援プログラム補助</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問同行②</li> </ul> <p>事前：訪問支援の経過について、同行スタッフよりレクチャー    事後：訪問支援の振り返り、記録作成の補助</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所にて利用者対応（声かけ等）／支援プログラム補助</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ（訪問支援）に関する事例検討       <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修振り返り／今後の活動</li> <li>・支援者間の情報交換</li> </ul> </li> </ul>

機関・団体名	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス
所在地	〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄7255（武雄市事務所） 〒840-0826 佐賀県佐賀市白山2丁目2-7（佐賀市事務所）
研修実施場所	〒840-0826 佐賀市白山2丁目2-7 KITAJIMA ビル1階 「さが若者サポートステーション」
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色	<p>「施設型」公的支援の補完的な機能を担うアウトリーチの必要性は従前より指摘されてきた。しかしながらその支援手法としての困難性から多くの行政機関で敬遠されたため、民間組織が先行する形で取組が進められた歴史がある。その結果、公的支援としてのノウハウの蓄積・共有化は遅れ、地域によっては何ら専門的な研修・指導を受けることなく訪問活動が展開されたり、効果性の検証もないまま一部の民間組織に頼った対策を講じる自治体も散見される。</p> <p>当該分野において支援対象となる若者は、自己確立が不十分で心理的にも不安定な特性を持つ思春期あるいは青年期にあり、その状態も経緯によっては自傷他害のリスクを帯びる深刻なケースも想定される。従って、事態の悪化を招くような安易な介入は避けなければならない。訪問に際しては専門性を伴った安全かつ確実なアプローチが求められる。当法人はこういった観点から、教育・医療・福祉等複数分野の知見の集約によって発展的に確立された訪問支援手法と連続支援行動を可能とする重層的支援ネットワークをバックボーンに、旧来の取組とは一線を画した訪問支援事業を展開し、当該分野において全国トップレベルのアウトリーチ実績を収めている。</p>
機関・団体で運営している相談・支援機関名	さが若者サポートステーション たけお若者サポートステーション 佐賀県子ども・若者総合相談センター 佐賀市生活自立支援センター
研修全体の概要	訪問支援への導入から機関誘導、機関誘導後の支援までの一貫した支援の流れについて研修を実施する。研修内容としては、事前面談から初回訪問に向けた枠組み設定、支援計画の策定、訪問現場での面談、アセスメント、保護者対応、次回訪問設定等、アウトリーチ全般にわかる実地訓練。
研修内容	オリエンテーション 受入団体の業務内容説明 関与継続型及び機関誘導型のアウトリーチに焦点を当てた集中講義
	訪問（被支援者）（被支援者の概要と注意点、振り返りなど）事前面談から初回訪問に向けた枠組み設定支援計画の策定について
	訪問（被支援者）（被支援者の概要と注意点、振り返りなど）訪問現場での面談（被支援者との関係性、地の利など）についてアセスメントについて
	訪問（被支援者）（被支援者の概要と注意点、振り返りなど）保護者対応（チーム対応、他分野に渡る専門性）について次回訪問設定（シーディングの意図など）について
	訪問（被支援者）（被支援者の概要と注意点、振り返りなど）戦略的人材育成（当団体の養成カリキュラム）について危機管理（個人情報管理など）について実地研修の振

機関・団体名	特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」
所在地	〒894-0036 鹿児島県奄美市名瀬長浜町 23 番 25 号
機関・団体におけるアウトリーチの特徴や特色を記載	当団体は、前身である合気拳法武道を含めて 30 年以上にわたり、青少年問題・家庭問題の受け皿として活動してきた。民間団体としての機動性や広範なネットワークを生かしてアウトリーチを行い、ひきこもり・暴力・非行・薬物・自殺等、深刻化・複雑化する青少年問題・家庭問題を抱える青少年に対して、当団体への誘導をおこなっている。
機関・団体で運営している相談・支援機関名	厚生労働省認定事業 奄美若者サポートステーション 奄美市委託事業 重点分野雇用創出事業 鹿児島县委託事業 自立援助ホーム さざ波の家・奄美 鹿児島県警委託 子ども見守りカメラ（ボランティア）
研修全体の概要	訪問支援への同行や通所・宿泊型施設（サポートステーション・自立援助ホーム）等の施設にて当団体のアプローチ方法や各機関のネットワークの連携・リファー等の取り組みを中心に研修を実施する。
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション（ミーティング参加）</li> <li>・受入団体の各事業説明</li> <li>・当団体所長より事例説明 等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問①（スタッフより支援経過について説明）</li> <li>・訪問後、訪問支援記録作成と、振り返り</li> <li>・その後のフォローアップについてスタッフより説明</li> <li>・「ゆずり葉の郷」来所者、入所者対応（相談支援・学習指導等）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問②（スタッフより支援経過について説明）</li> <li>・訪問後、訪問支援記録作成と、振り返り</li> <li>・その後のフォローアップについてスタッフより説明</li> <li>・「ゆずり葉の郷」来所者、入所者対応（相談支援・学習指導等）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動への参加</li> <li>・「ゆずり葉の郷」来所者、入所者対応（相談支援・学習指導等）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施研修の振り返り</li> <li>・ミーティングへの参加</li> </ul>

図表 7 (実地研修 - 研修生レポート / 一部抜粋・語調整)

実地研修レポート (研修生)
<p>(レポート1)「当事者に対してのアウトリーチ」</p> <p>自宅だけではなく、屋外でのスポーツや外食等当事者の状態やニーズに沿った形で場面・時間・活動設定がされており、困難度の高いケースにおいては、機関や職種固有の役割や枠組みに捉われ過ぎることなく、柔軟な対応を行っていく必要性を学ぶことができた。</p> <p>居室内の状況から、何に注目をして話題を展開していくのか、そこから見える当事者の性格傾向や状態に関するアセスメントを担当スタッフの指導の下より意識的に行うことができた。また、支援に臨むべき態度として、当事者の興味関心事項に対して“ふり”ではなく、支援者自身も本当に興味を持ち続け情報や知識を深めていくことが支援の展開において重要であることを学ぶことができた。</p> <p>様々な年齢層の当事者のアウトリーチに同行をさせて頂いたが、青年期以降の当事者の話から、引きこもり期間の長さ按比例し、社会への復帰が困難になっていくという実態を知り、問題の早期発見・早期介入の必要性を実感することができた。</p> <p>「組織・事業運営等」</p> <p>複数事業を受託することにより幅広い年齢層の相談をワンストップ化で受けることができる体制を準備しており、縦割りの弊害によるケースのロストを最小限にする上で非常に効果的であると感じた。</p> <p>大学と連携してのボランティア養成等既存のマンパワーの不足を如何に補うかだけではなく、そういったボランティア経験者が将来的に地域支援の担い手となり、地域全体の支援力の向上につながるといった“いま”だけではなく、“さき”を見据えた間接支援の在り方が非常に印象的であった。</p>
<p>(レポート2) 就職や進学の数といった実績ではなく、生きていく力を身に付けることが支援の本質だと学んだ。そのためには、一人ひとりの対象者が様々な機会に巡り合える「場」や「機会」を設けることが必要だと感じた。</p> <p>インテークで本人が何を望んでいるのかをできる限り把握することで、アウトリーチの目的が明確になる。しかし、私たちの対応できる範囲が狭ければ、本人の成長機会となるようなアウトリーチにはならない。「何もしたくない」という当事者に対して、適した選択肢を提示できるよう「場」や「機会」を増やしていくことが、私たちの支援にとって必要だと感じた。そのためには、自らの組織の領域を広げていくことや、他の機関と協働していくことが重要である。</p>
<p>(レポート3) 当事者もスタッフも、心にゆとりを持ちながら自らも有意義な心持ちを大切にしている。</p> <p>お金の使い方がわからない当事者も多いということもあり、外食や買い物などの社会参加も積極的に同行していた。外部の人と関わるという事での一つの社会体験とともに、今まで知らなかった楽しみや、お金を稼ぐ意味などを考えさせることで、自主性を促せる体験していた。</p> <p>団体内で多様な相談・支援施設を運営しており、いろいろな状態の当事者が利用できるような多くのステップが用意されている。作業も種類が多く、施設内での簡単な内職から少し技術のある物、外部での活動など、力量に合わせ上がっていくようになっているため次への目標も立てやすくなっている。また他の当事者との間でも刺激を受け合い、ステップアップを目指していく循環を生み出すため、各段階の作業同士を近くで行うようにもしており、当事者にとってステップアップをイメージしやすくする工夫をしている。</p> <p>家族支援にも重点を置いており、家族会が活発に動いている。勉強会も行い、家族の障がい・疾病に関する知識なども家族自身積極的に身に付けている。また勉強以外にも保護者が集まり交流する場ともなっているので、そこでのつながりが強く、それを楽しみに来ているという方も多いという事だった。初めは来るのが不安だったが来てよかった、と言う方が多く、当事者の保護者の居場所としても成り立っていた。ここでも自身が楽しみに参加できる場、雰囲気づくりを大切に、家族自身が元気になる場にもなっていると感じた。</p> <p>家族が一番身近な支援者として考えられるため、まずは家族が元気になることが必要。家庭内の雰囲気も変えていき、当事者への対応も変えていくことで関係を良好にしていく。</p> <p>そのための個々の面談も行っている。</p> <p>居場所を第1、第2と2段階に分けることでうまく差別化しており、利用者間の中でもお兄</p>

さん・お姉さんのような存在（役割）が生まれたり、憧れを抱いたりできるような関係性をうまく作っていた。第一段階では一人でも遊べるような漫画や音楽、楽器、テレビやゲームなども数多く置いており、それを介して他のメンバーと関わるきっかけにもなるようにしている。スタッフの関与も必要だという事だった。第2段階ではメンバー同士で直接コミュニケーションをとり、活動なども自分たちで考えていけるようにしている。外部での活動も多く、賃金を得る場合もある。また、以前に支援を受けていた当事者が遊びに来る機関もあり、その自立した姿に憧れを持ち、自分自身のステップアップを考えていくことにも繋がっている様子だった。

利用者の人数や質が違うという事はあるものの、このような流れが自分の組織の居場所では出来ておらず停滞気味で、居場所までは出て来るものの、居場所に長く留まってしまう状態もあるので、常に次のステップをそれぞれが意識できるようにし、当事者のステップアップを支援していくという流れを作っていく事が必要だと感じた。

（レポート4）支援とは本人の持っている力を引き出すための関わりであるということ再認識した。方針を出し意図的に介入するところはもちろんあるが、実地研修先では、本人と共に行動し、本人の気持ちを第一に考えていく寄り添い型支援を徹底して行っている。変化を急がず、あくまでも決断と行動の主体を本人においている。

そしてアウトリーチとは、支援者それぞれの個性を活かして行うものだと実感した。所持資格よりも支援者のキャラクターが重視されるのは、人と人の繋がり（関係性）の中で支援が展開されていくからである。それぞれの持ち味を活かして現場で活躍してもらい、尚且つリスク管理ができているのは、専門相談員によるスーパーバイズがきめ細かに行われているからこそと感じた。この専門的な力と日常的な力（非専門性）の組み合わせは、今後の組織づくりや支援展開に非常に役立つ視点だった。

地域連携に力を入れていく必要がある私の所属団体としては、その組織展開に学ぶところが沢山あった。NPOも企画力・営業力が大切で、行政には予算ではなく信頼を得ると意識することや、地域の課題に着目し、3つの違う意見をまとめて1つの活動を行うといったアドバイスを今後実践していきたい。

また、実地研修先の当事者との関わりを見て考えたことは、寄り添ってくれる存在がいるだけで、当事者は自分の力で動き出すことができるということだ。当方所属団体でも多くのボランティアが活動しているが、リスクヘッジのための管理ばかりが強調されている状況である。学生の熱意や、ピア関係の築きやすさを長所と考え、もっと運営に携わる「子どもに寄り添える身近な大人」としての人材育成をする必要があると感じた。

そして、私たちの行っている支援は、周りの人間によるところが大きいと反省した。もっと本人の生きる力を引き出していくプロセスを大切にし、そこを支援の核として展開していく必要があると感じた。

（レポート5）フリースクール等でも効果が期待できるものが多くあった。不登校の子どもにも様々なタイプがいるが、小集団にコーディネーターを配置し個々の特性を把握させておくことで、いち早く変化に気づくことができ、その他の集団においても応用することができる。子どもも他の子どもの姿を見ながら集団の中で自発的に役割を見つけ、人との関わり方・ふるまい方を実感をもって身につけることができるのではないかと感じた。

また、増加傾向にある「無気力型の不登校」については、様々な成功事例から解決の糸口を見つけなければならないことがわかった。しかし、「できた！」という体験が興味・意欲へとつながり、人間の世界を広げていくということを実感したので、本研修で学んだ自身の実体験を生かし、伝え、実施していきたいと思う。

図表 8 (実地研修／アンケート結果)

